

## 第4回 幹事会レポート

日時 2011年10月1日 14:00～16:00

会場 昭和音楽大学北校舎 3F 会議室

出席者 柳田、吉田、下八川、森下、中地、阿方、生頼、小倉

### 審議事項

#### 1. 第7回大会のスケジュール

大会スケジュールについて、確認・検討の結果、以下のように変更することとなった。

- (1) パネルディスカッションの会場を、「2F 会議室」とする。
- (2) 研究発表の開始時刻を 15:20 とする。
- (3) 研究発表 Room-2 の教室を「3F ML 教室 1」とする。
- (4) 研究発表 Room-3 の教室を「3F 講義室 2」とする。
- (5) 研究発表 Room-2 の発表者を前後に交換する。すなわち、15:20 より小林恭子会員、16:10 より薛慶氏とする。
- (6) 研究コンサートの Prof.プラーゲ氏の所属を「モーツァルテウム音楽大学」とする。また、司会を初山会員に依頼する。

\*添付大会スケジュール（10月2日）参照

#### 2. 中国からの来日者について

中国音楽大学関係者の人 JSEKM 参加者は 17 名（教員 9 名、学生 5 名、関係者 3 名）が予定されていたが、大連大学の李楽友先生は都合により来日しない。参加者のリーダー的な役割は楊俚坤先生が担うと考えられる。

基調講演、パネルディスカッション、研究発表にかかわる通訳については、台湾人（昭和音大の先生夫人）および学芸大大学院生(中国よりの留学生)1 名を依頼中である。

#### 3. パネルディスカッション

パネルディスカッションは通訳に時間を要することが推察されるため、まとめとして楊俚坤氏、話題提供者は、謝及・王晓蓮・王永剛・譚芸民の 4 氏とする。

また、パネルディスカッションの名称を「中国事例報告会」とする。

#### 4. 謝礼について

謝礼については、プラーゲ先生の演奏料は学会行事として中地先生が本人と相談し、通訳は昭和音楽大学を参考にプラス交通費、大学院生については学芸大学の規程を参考に支払う。

#### 5. 大会予算

別添の「第7回大会実行予算」について検討し承認された。生頼事務局補佐より収支予定は 51 万

6 千円のマイナスであるが、会員の年会費が納入されれば、ほぼ相殺できる予定であると報告された。

## 6. その他

次回幹事会日程 11月11日(金)17:00 学芸大学芸術館(2号館)2F 会議室とする。

### 報告事項

#### 電子キーボード関連海外情報

阿方幹事より以下3点について報告された。

- ① 第3回「新芸杯」(New Arts Cup)という名称の電子オルガンコンクールが、8月16～18日、中国・ハルピンで、325名の出演者が熱戦を繰り広げた。ここでは電子オルガンのソロに加えて、協奏と伴奏という部門があり注目された。またここでの審査員の多くが今回の大会に来日することであった。
- ② ヨーロッパではじめての電子オルガンアンサンブルによるオペラ公演がイタリアのプレジヨ・ミュージック・フェスティバルで行われた。演目はプッチーニの“トスカ”で、8月8、10、12、14日の4回公演、電子オルガンは昭和エレクトーン・デュオ(会員の佐々木果奈さんと千葉祐佳さん)が演奏し、好評を博した。
- ③ USC(南カリフォルニア大学)の大学院でパイプオルガンを勉強している趙偉成氏(2008年度エレクトーンコンクールグランプリ)がアメリカのパイプオルガンコンクール第2位に入賞。彼からUSCでは、音楽大学における電子オルガン専攻に注目しているとの情報が紹介された。

以上

(文責:小倉 隆一郎)

添付物:大会スケジュール訂正版

# 日本電子キーボード音楽学会 第7回全国大会

と き：2011年11月12日（土）10：30～19：30

ところ：東京学芸大学（東京都小金井市貫井北町4-1-1）

アクセス：JR中央線武蔵小金井駅北口下車、京王電鉄バス小平団地行き、学芸大正門下車

10:00	≪受付≫ 芸術館ロビー 午前中の会場は芸術館		
10:30	ごあいさつ 学芸大学関係者（会場校） 柳田 孝義（学会代表）		
10:45	基調講演 台湾・東海大学と電子オルガン～どのようにして電子オルガンの社会認知をしてきたか～ 郭宗愷（ピアニスト・指揮者/台湾・東海大学）		
11:30	総 会		
12:00	昼 食		
13:00	事例発表		
	2F 会議室		
	事例発表“中国における電子キーボード教育の現状を知る” 話題提供者：楊儉坤（広州市現代文化芸術訓練学校）、王晓蓮（北京現代音楽学院）、王永剛（ハルピン大学芸術デザイン学院）、謝及（星海音楽学院）、譚芸民（西安音楽学院）		
15:00	休 憩		
15:20	研究発表		
	Room-1(3F 講義室-1)	Room-2(3F ML 教室 - 1)	Room-3 (3F 講義室-2)
	研究発表① 韓国室内オペラフェスティバルと電子オルガンの活用 西岡奈津子（E0 演奏家）	研究発表② 広州外語芸術教員養成大学のML教育とテキスト 薛慶（広州外語芸術教育大学）	研究発表③ 楽器寿命の観点から電子楽器を考える 金銅英二（松本歯科大学）
16:00	小休憩		
16:10	研究発表④ 浜松学芸高等学校におけるハイブリッドオケの試み 宮本賢二郎（浜松学芸高校）	研究発表⑤ 教員養成大学におけるMLの現状と課題 小林恭子（目白大学）	研究発表⑥ 「介護予防運動における電子キーボードの活用の考察 松本裕樹（和歌山大学）
16:50	小休憩		
	≪研究コンサート≫		

17:00	<p style="text-align: center;">リスト“悲愴協奏曲”の比較演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2台のピアノによる演奏 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1ピアノ Prof. プラーゲ（モーツァルテウム音楽大学教授）</li> <li>第2ピアノ 中地雅之（東京学芸大学准教授）</li> </ul> </li> <li>・電子キーボードアンサンブルとの協演による演奏 <ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノ Prof. プラーゲ（モーツァルテウム音楽大学教授）</li> <li>電子キーボード 東京学芸大学学生有志</li> </ul> </li> <li>・トーク “キーボードアンサンブルについて” Prof. プラーゲ 中地雅之</li> </ul>
18:00	懇親会（学食）

\*発表者とタイトルは都合により変更される場合もあります。

中国からの来日予定者

### 1. 教師

- 楊儉坤（男）（広州市現代文化育成訓練学校校長、アジア・パシフィック電子キーボード協会事務局長）
- 薛慶（男）（広州外語芸術教員養成大学音楽学科長）
- 謝及（男）（星海音楽学院ポピュラー音楽科副主任）
- 韓雪（女）（星海音楽学院ポピュラー音楽科講師）
- 王晓蓮（女）（北京現代音楽学院電子オルガン科教授、中国音楽家協会電子オルガン学会副会長）
- 王永剛（男）（ハルピン大学音楽・デザイン学院電子オルガン教授）
- 譚芸民（男）（西安音楽学院電子オルガン科教授）
- 馬小平（男）（西安音楽学院副教授）
- 朱静（女）（西安音楽学院助教授）

### 2. 学生

- 唐詩論（男）星海音楽学院
- 李元（女）星海音楽学院
- 申雁冰（女）星海音楽学院
- 李正（男）哈尔滨学院
- 常曉婷（女）北京现代音乐学院

### 3. 父兄ほか

高 衛（男） 王曉蓮の夫  
陳 宏（女） 王永剛の妻  
孟慶双（女） 李 元の母親